



働く人紹介

横田 久美さん / 上富良野町出身
=グラスフォレスト in 富良野勤務=

作る喜びと笑顔をもろう喜びを感じて



- ① 遠方からの旅行客にも、地元のリピーターにも楽しんでもらえるように気配りを欠かさない横田さん。
- ② ガラスの美しさ、面白さを知ってほしい。それが制作体験指導係としての横田さんの願い。
- ③ どんな商品を作れば喜ばれるか、田口店長（右）や仲間たちと情報交換。和気あいあいとした雰囲気、若手スタッフも活発に発言。

きつかけは小学生のときの制作体験。春から秋の観光シーズンには、1日平均100組もの利用客でにぎわうガラス工房「グラス・フォレスト in 富良野」。入社して12年になる横田久美さんは、販売から制作体験の指導、店頭のディスプレイ、発注、商品開発まで、幅広い業務を担当しています。

横田さんがガラスに興味を持ったきっかけは、小学校の修学旅行で小樽のガラス工房を訪れたときのこと。ガラスの表面に砂を吹き付けて模様を描く「サンドブラスト」を体験。そのときの楽しかった思い出が、最高の小樽みやげになりました。

一人ひとりのお客さんを大切に。子どもの頃からもの作りが好きだったという横田さんは、工房と体験施設を併設する現在の会社に就職。今度はお客さんをもてなす側に回り、たくさんの人を笑顔にできる職場にやりがいを感じています。

入社直後はアクセサリ、今は工房オ

リジナルの「しばれ硝子」をはじめとする手作りガラスの売り場を担当。目移りして迷っているお客さんから相談を受ける。ガラス製品販売のプロとして知識と経験と想像力をフル回転させ、一人ひとりが本心に欲しい物を会話で引き出します。

「接客の仕事が好きなんです。お薦めした商品が気に入っていただけ、帰りかけに『ありがとう』と声をかけてもらえたときが一番うれしい」と、目を輝かせます。

工房の職人さんたちと新商品開発。店舗に隣接した工房の職人さんたちは、お客さんと直接顔を合わせて話す機会がありません。製造部門の目となり耳となつて、新商品開発のヒントを得ることも、接客チームの大切な役割です。「大人の男性に喜ばれそうな渋い色合いのガラスを増やしたい」「お客様がこんなのがよかったらいいなって話していた」。社内全体で情報を伝えあい、より愛されるガラス製品を作り続けています。

今回紹介する事業所

グラス・フォレスト in 富良野

(所在地)
藤郷市街地 3

2005年7月にオープンしたガラス製品専門店。併設の工房で製造される手作りのガラスや花器、置き物などのほか、国内外メーカーのガラス製品を扱う。とんぼ玉作りやサンドブラストなどのガラス制作体験の場も設けている。


富良野で見つける 自分らしい毎日

urano **Style**

フラノジョブスタイル

市内企業の求人や雇用環境の情報発信を行い若者の地元事業所への就業を支援しています。

市内企業の求人情報を無料で掲載できます。☎株式会社コダマ ☎22-3588

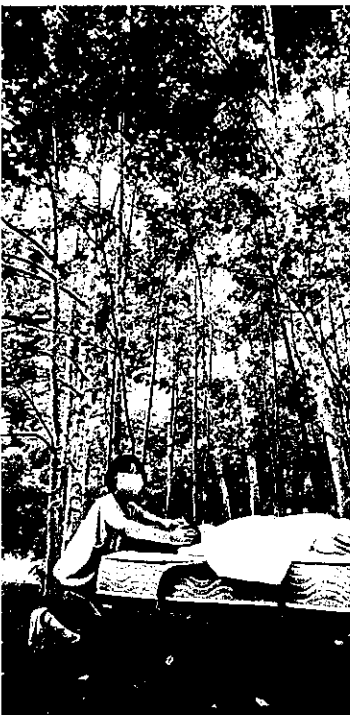


富良野で暮らし働く人たちがいて、元気なまちはつくられています。頑張っている事業所や働く人、関連する事業を紹介します。



働く人紹介
宮武 直子さん / 山梨県在住
 =アロマトリートメントサロン経営=

富良野の自然を自分の生活の中に取り込む



1日目は中富良野町にあるラベンダーオイルを抽出する施設を視察。アロマ関連の会社を営んでいる宮武さんにとって、アロマオイルを作っている現場を見るのは貴重な体験となった。普段から天然素材を使うことにこだわり、地球への還元も考えている宮武さん。2日目は富良野自然塾の環境教育プログラムを受講。プログラム終了後には、富良野自然塾のフィールドを生かした「アウトドアSPA」を実証するため、森の中にベッドを置き、アロマトリートメントを実演するなど、新しいビジネスモデルの可能性を探った。

ワーケーション実証事業 参加者レポート

どんな仕事をしていますか

ケーブルテレビの番組制作やマーケティングの仕事を経験し、16年前にアロマトリートメントのサロンを横浜で開業しました。現在は、横浜と和歌山の2カ所でサロンを営んでいます。きっかけは、偶然体験したアロマトリートメントです。もともと、パソコンが普及してきて仕事のストレスのため込む人が増えていると感じていて、リラクゼーションが求められていると考えていたこともあり、イギリス式のアロマトリートメントを学ぶことを決めました。

やりがいを感じるときは

開業して一番驚いたのは「ありがとう」と感謝されることです。実際に体調が悪くて閉じこもりがちな人がいましたが、サロンに通ってから心身の状態が良くなり、結婚することができた人もいます。この仕事は、人生を豊かにすることができるのが魅力です。

実証事業に参加した理由

普段は横浜、山梨、和歌山で多拠点生活をしています。4年前に移住した山梨県の山中湖は、リゾート地ということもあり満足度がとても高いです。いろんな人にリゾート地に移住する良さを知ってもらいたいと思いい、実証事業に申し込みました。

富良野市の印象は

今回の実証事業で出会った方々は、みなさん気遣いが素晴らしく、とても居心地が良かったです。働いている人たちも明るく活発で、洗練された大自然を感じます。自然環境や人の雰囲気の良いが「移住のしやすいまち」を感じさせます。

富良野市への期待

スマホのテザリングがあれば森の中でも会議に参加できます。遊ぶことが中心の観光とは違い、ワーケーションは日常を楽しみながら移住のきっかけをつくるのが可能です。職種や立場によって違いはありますが、柔軟な考え方で可能性を探り、移住と新しいビジネスのきっかけになってほしいです。

応援する事業の紹介

**富良野市
 ワーケーション
 実証費用助成金**

リゾートテレワークによる新たな関係人口を創出するため、市外の企業社員が市内の宿泊施設に滞在し、テレワークや研修などの仕事と余暇を組み合わせたワーケーションを実証した場合、市内の宿泊費及びワークプレイス利用料の一部を助成しています。

助成金の
 詳しい市
 内容は
 HPを
 ご覧
 ください。



企画振興課 ☎ 39-2304

//// 富良野で暮らし働く人たちがいて、元気なまちはつられています。頑張っている事業所や働く人、関連する事業を紹介します ////



働く人紹介

小野 昌子 さん / 富良野市出身
= シルバー人材センター 会員 =



自分に合った働き方で 体も生活も大切に



①福寿司で店内の清掃をする小野昌子さん。午前中の短い時間で働けて、自分の都合に合わせて休めるところが働きやすいと話す。

②以前はパート職員が清掃をしていたが親の介護で離職。シルバー人材センターに相談し、3年前から小野昌子さんを含む2人が派遣社員として来るようになった。「今では派遣というより一緒に働いている仲間のひとり。いつもていねいに清掃してくれて、とても助かっています」と福寿司の小野正明さん(写真左)。派遣の仕事は4年前から会員の要望に応えながら、飲食店、ホテル、ゴルフ場、スキー場、スーパー、機械工場など新しい職場を開拓。「自分の生活を大事にしながら、隙間時間で働きたい。自分に合った仕事を選びたい」と話すシルバー人材センターの佐藤良治さん(写真右)。

③実際に働いてみて感じること
シルバー人材センターには、いろいろな仕事があります。実際に働いてみて自分に向いてないと感じたり、体力的に厳しい仕事は別の仕事に変えてくれます。今月はあまり働かなく

④どんな仕事をしていますか
3年前から福寿司さんで清掃の仕事をしています。清掃の仕事は初めてでしたが、主婦歴が長いので、家の中の掃除と同じ要領ですぐに慣れました。午前中の短い時間で働けるので、とても満足しています。清掃の仕事で休みが続くときは、農家のヘルパーにも行きます。

⑤会員になったきっかけ
8年前に70歳になり、兄がいる富良野に戻ってきました。働く意欲はありましたが、自分で仕事を探すのは大変だと思い、シルバー人材センターの会員になりました。

⑥加入を考えている人にアドバイス
いろいろな仕事と働き方があるので、まずは相談してみると良いと思います。働く意欲があっても、自分の時間も大切にしたい人にはお勧めです。シルバー人材センターで、自分に合った働き方や興味のある仕事を見つけてほしいです。

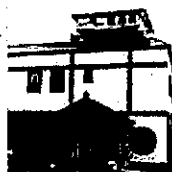
⑦シルバー人材センターの魅力
仕事のことでは不安なときは、事務局のみなさんが優しく対応してくれます。農家に行くときは集まってから行くので、お互いに声かけするのを楽しみのひとつです。ずっと富良野に住んでいなかったため、話し相手や知り合いをつくるきっかけにもなっています。

⑧良いというときは、休みを多く取ることでもでき、自分の体調や都合に合わせて生活と仕事が両立できるところが良いです。

今回紹介する事業所

福寿司

= 朝日町1番24号 =



通常の約2.5倍のジャンボ寿司が名物。大きな唐揚げも評判。

応援する事業の紹介

富良野市シルバー人材センター
= 春日町12番5号 =
(ふれあいセンター)

10月はシルバー人材センター事業普及啓発促進月間。冬は除雪の仕事で男性会員を募集中。市内在住の60歳以上の方なら誰でも会員になれますので、気軽に問い合わせください。 ☎ 22-5010

//// 富良野で暮らし働く人たちがいて、元気なまちはつくりられています。頑張っている事業所や働く人、関連する事業を紹介します ////



誰もが自分らしく 生きられる社会へ

多様な性について考えよう

「LGBT (エル・ジー・ピー・ティー)」という言葉を知っていますか？「LGBT」は、性的少数者を表す言葉の一つ*です。私たちの「性」は、戸籍上では「男性」と「女性」の二つですが、性にはさまざまな形があり、単純には分けられません。LGBTの人たちの中には、ありのままの自分を表現することが難しく、生活のさまざまな場面で困難を抱えている人がいます。

富良野市では、「男女共同参画推進計画」を策定し、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現に向けて、差別などの人権侵害のない「人権意識」の向上に取り組んでいます。誰もが自分らしく、多様な性を認め合う社会について、まずは「LGBT」を正しく理解することから始めてみませんか。

*Sexual Orientation(性的指向)とGender Identity(性自認)の頭文字をとった「SOGI」という表現もあります。

性的指向

セクシュアルオリエンテーション
Sexual Orientation

性的指向とは「どのような性別の人を好きになるか」ということ。自分の意志で選び取るというより、多くの場合は思春期のころに「気付く」ものです。



Lesbian レズビアン
女性の同性愛者
(心の性が女性で恋愛対象も女性)



Gay ゲイ
男性の同性愛者
(心の性が男性で恋愛対象も男性)



Bisexual バイセクシュアル
両性愛者
(恋愛対象が女性にも男性にも向いている)

性自認

ジェンダーアイデンティティ
Gender Identity

性自認(性の自己認識)とは「自分の性をどのように認識しているのか」ということ。「心の性」といわれることもあります。多くの人は「身体の性」と「心の性」が一致していますが、「身体の性」と「心の性」が一致せず、自身の身体に違和感を持つ人たちもいます。



Transgender トランスジェンダー
「身体の性」に違和感を持ち、「心の性」にそって生きたいと望む人

＜LGBTを理解する①＞

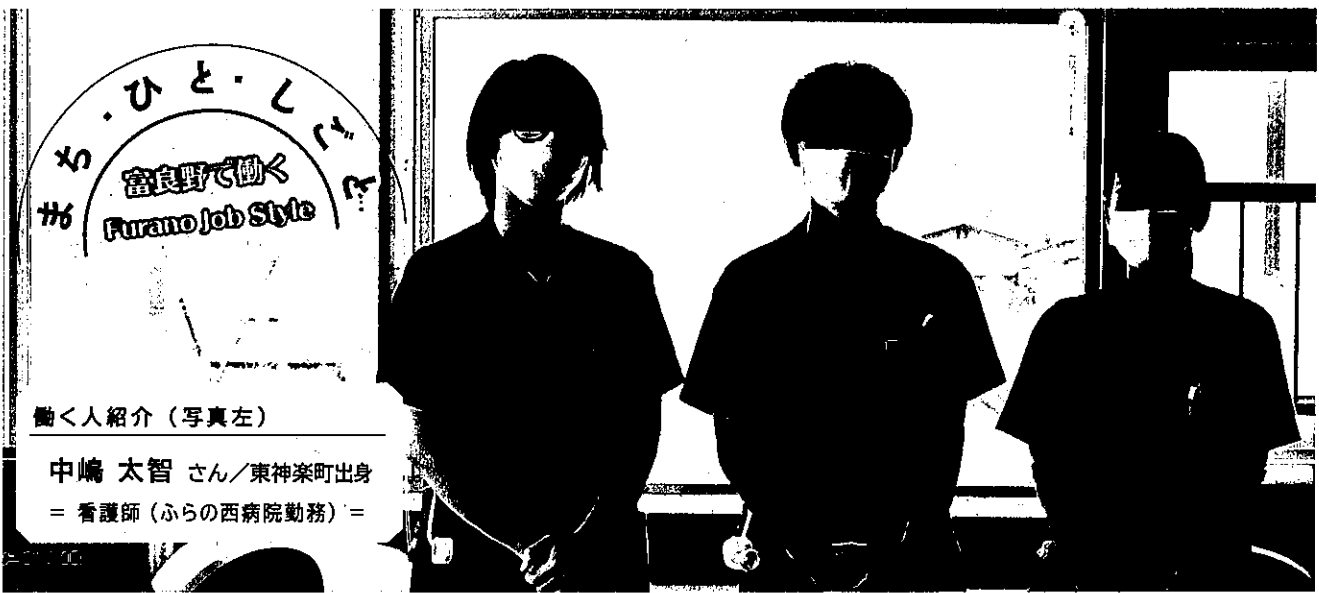
性の多様性を知る

性的少数者(セクシュアルマイノリティ)には、LGBT以外にも、「男女どちらにも恋愛感情を抱かない人」を表すアセクシュアル(Asexual)、「自分自身の性を決められない・わからない人」を表すクエスチョニング(Questioning)など、人の数だけ性のあり方が存在します。

＜LGBTを理解する②＞

意識や社会のあり方を見直す

誰もが自分の性を尊重され、自分らしく生きられる社会にするには、性的少数者に対する偏見や差別をなくし、異性愛など世の中の多数を占める人の意識や社会のあり方を見直す必要があります。性の多様性を知り、習慣や常識を変え、理解者を増やすことが社会をよりよくすることにつながります。



働く人紹介（写真左）

中嶋 太智 さん／東神楽町出身
＝ 看護師（ふらの西病院勤務）＝

患者に寄り添える看護師になりたい



④東神楽町出身の中嶋さん。旭川の高校に通い、部活は陸上部で短距離をしていたそう。さわやかな笑顔の秘訣はストレスをためないこと。「友達と遊んだり食べたりでもなんでもいいで、とにかく一人でため込まないようにしています」

⑥4月からふらの西病院で働く、同期の看護師たち。今年の3月に富良野看護専門学校を卒業した4人がふらの西病院で勤務。外来や急性期、慢性期の患者のいる病棟に分かれ、それぞれ活躍している。今回は3人を紹介。（左から有持 萌花さん、板宮 明輝さん、中嶋 太智さん）

実際に働いて感じていることは、患者さんへの手助けの方法にも、それぞれ違うやり方があるということを感じています。患者さんによって症状や状態などが違うので、そのことを考えて対応しなければいけません。声のかけ方

富良野看護専門学校へは高校の指定校推薦で入学しました。他校と比べて学費が安いほか、富良野看護専門学校に進学すると3年間、市から毎月3万円の修学資金を借りることができ、市内の医療機関に勤務することで返還が免除されるということもあり、進学を決めました。

富良野看護専門学校に進学した理由

富良野看護専門学校へは高校の指定校推薦で入学しました。他校と比べて学費が安いほか、富良野看護専門学校に進学すると3年間、市から毎月3万円の修学資金を借りることができ、市内の医療機関に勤務することで返還が免除されるということもあり、進学を決めました。

看護師を目指したきっかけ

中学生のときから人と直接関わり、役に立てるような仕事がしたいと思っていました。そんなとき中学校の先生から「頼りがいがあり、誰にでも優しくすることができると看護師を目指してみてもどうか」と勧められました。その言葉が看護師を目指すきっかけになりました。

少しずつでも毎日の授業の予習復習をして、あとで内容を振り返られるようにしておくの良いと思います。富良野看護専門学校の先生が作ってくれる資料は分かりやすいものが多いので、それをまめておくと、試験の対策がしやすいです。

これから看護師を目指す人へ

4月から看護師になったばかりなので、まずは先輩看護師の方々と同じように仕事ができるようになりたいです。救急の患者さんが来たときや、忙しいときにも焦らずに、患者さんに寄り添えるような看護師を目指しています。

どんな看護師になりたいですか

や接し方なども、患者さんからの印象が悪くならないように気をつけています。やりがいを感じていることは、対応した患者さんに「ありがとう」と感謝されることです。点滴をしたり、体を拭いたりして自分が対応した患者さんに声をかけてもらえると、「やってよかったな」と感じます。

今回紹介する事業所

ふらの西病院

＝ 桂木町2番77号 ＝
☎ 23 - 6600



応援する事業の紹介

富良野市 看護職員養成 修学資金貸付

将来市内の医療機関で働くことを条件に、看護専門学校や大学に在学する看護学生へ、月額3万円の修学資金を貸し付けしています。看護師免許取得後、一定期間市内の医療機関で働くことで返還が全額免除となります。

富良野看護専門学校 ☎ 22 - 5510

//// 富良野で暮らし働く人たちがいて、元気なまちはつくりられています。頑張っている事業所や働く人、関連する事業を紹介します ////



働く人紹介

相澤 孔恵さん / 富良野市出身
= シルバー人材センター 会員 =



親しみがあり 大きな家族のような存在



◎ 会員になったきっかけ

16年前に高齢の母と一緒に暮らすため、富良野市に戻ってきました。その後、体調を崩して離職。古くなった自宅の修理費は年金では足りず、家を片付ける時間もほしいと悩んでいたとき、新聞で「60歳以上なら誰でも会員になれる」と、シルバー人材センターのチラシを見て説明会に参加しました。

◎ どんな仕事をしていますか

昨年4月に会員になり、6月からレストランのホールで接客をしていました。不安だった体力が回復し、やる気も出てきたころに今の仕事を紹介され、9月から生協の農産部門のバックヤードで、野菜サラダの下ごしらえをしています。

◎ 実際に働いてみて感じること

同じ職場の先輩たちの職人技には関心

することが多く、困っていると直ぐに教えてくれます。目標は自分の仕事を時間内に終わらせること。「あと10分」というところまでできています。体の不調や自分言いづらいことは、シルバーの事務局が職場に説明してくれます。自分のことを分かってもらえると安心して働けます。

◎ シルバー人材センターの魅力

最初は、事務局と親しくしている会員を見て不思議でしたが、今では自分も身近な関係を築いていると感じます。自分の生活環境、家庭事情も理解してもらえるので働く意欲が出ます。生協のようにシルバー会員が同じ職場で別々の仕事をしていることもあり、会員同士で声をかけてくれるとうれしいです。シルバー人材センターは、親しみがあり「大きな家族」のような存在です。

④ シルバー人材センター会員の四宮さん(左)と佐々木さん(右)。副店長の渡邊涼さん(中央)は「従業員の人手不足を通年で補うことができ大変助かっています」と話す。

⑤ 店内で商品の補充をする四宮さん、生協で働くシルバー人材センター会員は現在4人。佐々木さんは惣菜部門で調理を担当、相澤さんは農産部門のバックヤードで働き、水産部門では鶴野さんが片付けと閉店作業を担当している。それぞれ通年で働き、会員からは「安定して働ける」と満足度が高い。

今回紹介する事業所

生活協同組合
コープさっぽろ
富良野店
= 若葉町13番1号 =



応援する事業の紹介 高齢者のライフスタイルに合った就労を提供し、生涯現役社会を応援します。
富良野市シルバー人材センター
= 春日町12番5号 = (ふれあいセンター)
新年度入会員説明会 (4月会員)
3月9日(木)・24日(木) 両日10時~
ふれあいセンター ☎ 22-5010

//// 富良野で暮らし働く人たちがいて、元気なまちはつくりられています。頑張っている事業所や働く人、関連する事業を紹介します ////